

都市再生整備計画

もりぐちし だいにち と し か く ち く だい かい へん こう
守口市大日都市核地区(第2回変更)

おおさかふ もりぐちし
大阪府 守口市

令和3年2月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	大阪府	市町村名	守口市	地区名	守口市大日都市核地区	面積	33 ha
計画期間	令和 元 年度 ~ 令和 3 年度	交付期間	令和 元 年度 ~ 令和 3 年度				

目標

- ・大目標：都市核としてさらなる拠点の魅力の向上
- ・目標：地域における賑わいの創出と教育・子育て環境の向上

目標設定の根拠

都市全体の再構築方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方え方を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための再構築方針)

本市は、高度経済成長期の人口増加による市街地の急激な拡大に伴い、都市基盤の整備が早期に進み、市内各地に老朽化した公共施設が点在している。今後、本格的な人口減少、超高齢化社会を迎えるにあたり、持続可能なまちづくりを進めるために、本市総合基本計画(平成23年3月策定済)及び都市計画マスタープラン(平成24年7月策定済)では、商業・業務系機能に加え、行政文化機能が集積し、更に市の玄関口にふさわしい都市基盤の整備を進める京阪守口市駅周辺「守口都市核」と、商業・業務・居住系機能が集積し、市域圏と広域圏の交流拠点としてさらに魅力ある拠点の形成を目指す大阪メトロ大日駅周辺「大日都市核」の2核を中心に、地域密着型の商業等の集積地として活性化を図る3つの地域核(東部・中部・西部)とバス路線などの交通ネットワークにより密接に連携させ、生活支援機能等の効率的な提供による地域拠点の賑わいと活力を創出し、快適な暮らしを実現できる歩いて暮らせる利便性の高いコンパクトな都市づくりを進めることとしている。

このことから、この2核を中心に都市機能誘導区域を設定し、守口都市核では、老朽化が著しい市役所庁舎の移転(平成28年10月完了)や、また、市域全体では、小中学校の統廃合(小学校19→13・中学校10→7・小中一貫校1:平成30年4月現在)や老朽化している公共施設の再編(老人福祉センター2カ所廃止:平成30年8月完了、幼稚園5園+保育所12園→3認定こども園:平成30年4月現在)を積極的に進め、公的不動産を活用しながら、市内各地に設置している旧公民館施設10館等の集約化を進める中で、地域のまちづくりや市民のコミュニティの場として地域コミュニティ拠点施設を市内3箇所の中心拠点区域に各1館ずつ新たに整備するとともに、既存の10館等を5館に集約化を図り(10館等→拠点施設3館+地区5館:平成30年8月現在)、さらに公共施設の再配置や福祉、商業等の必要な都市機能を誘導し、持続可能な都市構造を再構築するため、立地適正化計画(平成30年3月改定)を策定した。

こうした中、大日都市核における誘導施設として教育文化機能である図書館を重要な施設に位置付け、これを具現化するために、現「生涯学習情報センター」を法律上の市立図書館をとしてリニューアルし、あわせて隣接する公園についても一体的に再整備を行うことにより子育て世代だけでなく幅広い世代が利用・交流できる場として提供することにより、一層の拠点の魅力向上を図り、周辺商業機能の維持向上にも寄与し、活気にあふれ、周辺への広がりのある拠点づくりを目指す。

まちづくりの経緯及び現況

本市は、大阪市と隣接する西部地域から市街化が進み、特に高度経済成長期には急速に拡大した。その後、東部及び南部地域でも市街化が進み、現在では、淀川を除くほぼ全域が市街地となっており、市域の面積は、12.71km²で、密集した市街地が広がっている。

2つの都市核のうち、「大日都市核」と位置付けている大日駅周辺地区は、大阪メトロ谷町線の始発駅であり、加えて大阪モノレールの開通(南茨木一門真市:平成9年8月開通)にあわせた駅前広場の設置等や大規模工場跡地の土地利用転換により、大型商業施設(平成18年9月オープン)や超高層マンションの立地があり、周辺地区の土地利用の転換も進みつつある状況である。

一方で、当該大型商業施設の京都市守口線(旧国道1号)を挟んだ北側の区域については、平成5年に生涯学習情報センターが設置され、法律上の図書館の設置は見送られたもののプラネタリウムや同時通訳システムを備えた会議室など話題性もあり、開設当初は施設の利用も含め当該区域は一定の賑わいを見ていたが、開設から25年が経過する中、施設設備の老朽化や話題性も乏しくなってきたことなどにより利用は減少傾向にあった。さらに先述の大型商業施設などがオープンしたことにより、近年の施設利用者は大きく減少するとともに、人の流れもなくなり周辺は閑散としている。

また、大日駅前の超高層住宅の開発により一定区域の人口は増加したものの、その他では、人口減少が進む中、特に年少人口、生産年齢人口の減少が大きく高齢化率が高まっている。

課題

・人口減少、少子高齢化が進行するとともに、市街地の空洞化が進むなか、特に子育て世代を中心とした人口流出が著しく、地域コミュニティの維持やまちの持続性の意味からも子育てのできる環境の整備が求められている。

・現「生涯学習情報センター」は平成5年に開館し、法律上のものではないが図書館機能を有し、図書サービスの展開を行っているもの、近隣市の市立図書館と蔵書冊数の比較をした場合、最も少ない市でも24万冊であるのに対し、本市では16万冊と非常に劣っており、さらに、当該センターで図書サービスを行っていることについて、市民の知名度も高くないため、利用率が低度にとどまっており、法律上の市立図書館としてのリニューアルし図書サービスの一層の向上と、市民への周知を図る必要がある。

・大日都市核の中心に位置する大日公園は、交通拠点からのアクセス性が良く、現「生涯学習情報センター」と隣接しており、良好なアメニティを有する公園として市民に親しまれている。しかしながら、これらの好立地条件を活用しきれていないのが現状であり、本事業の誘導施設である図書館の整備事業コンセプトとともに、相乗的な効果を見出し、魅力・集客力を一層向上させることで、公園の賑わいの創出を図る必要がある。

将来ビジョン(中長期)

〈第五次守口市総合基本計画〉「平成23年3月策定済」

・2大都市核と地域核に都市機能の集積を図り、相互に連携・補完させながら利便性の高い生活交通の確保

〈守口市都市計画マスタープラン〉「平成24年7月策定済」

・ユニバーサルデザインに配慮したまちづくり等による安全・安心で暮らしやすい住環境を実現

〈守口市立地適正化計画〉「平成30年3月改定」

・まちの魅力を上昇することにより、定住人口の維持を図る

・市内に2地区ある「地震時等に著しく危険な密集市街地」の早期解消を行う

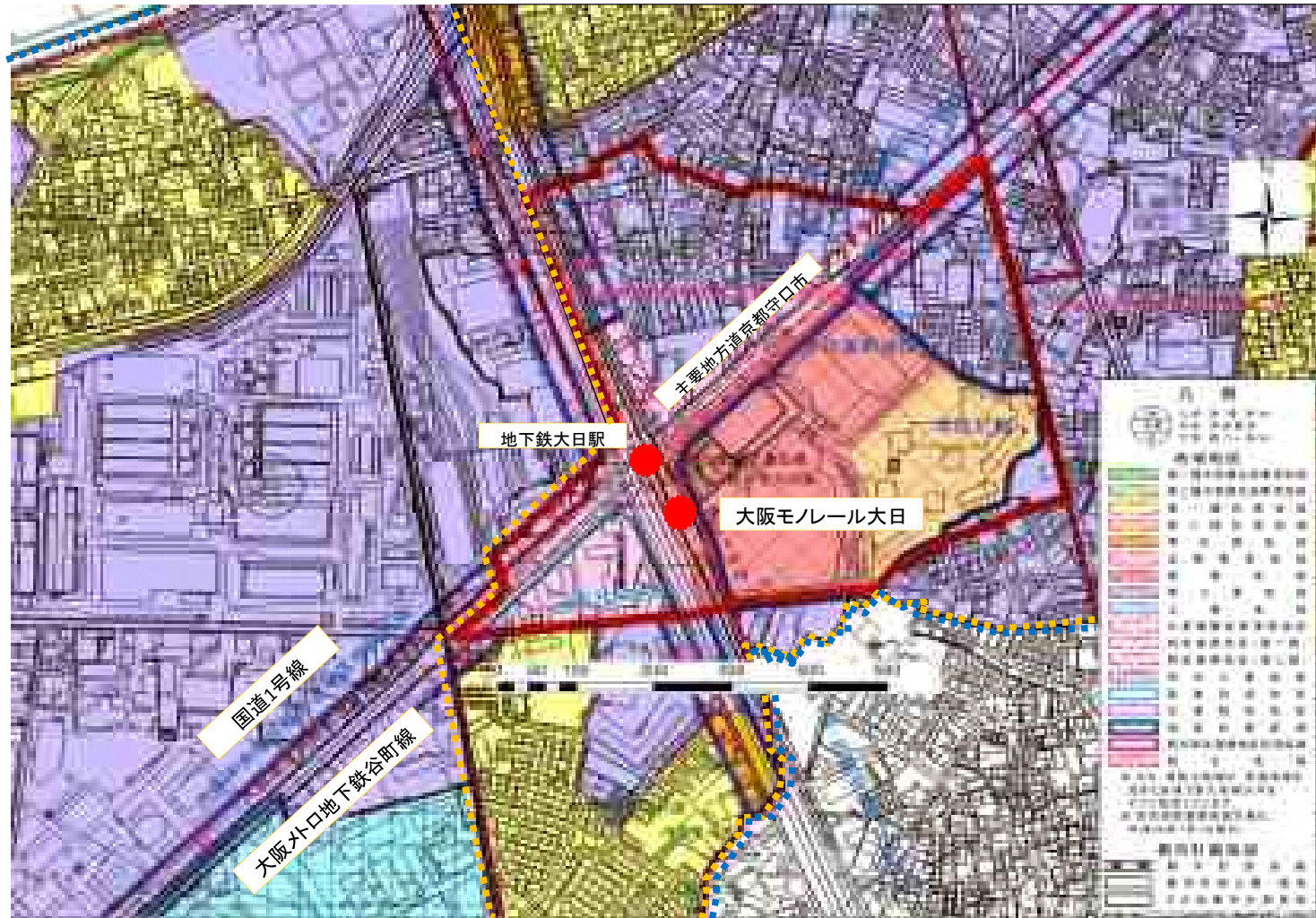
整備方針等




様式(1)-③

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【地域の賑わいの創出と教育・子育て環境の向上に向けた、生涯学習情報センターの再整備による学習・交流機能の充実】</p> <p>本市の立地の適正化に関する基本方針の1つに「拠点の魅力・活力の向上」があり、商業の活性化を図るとともに、子育て、文化、交流等の各種機能の誘導を図り、買い物や生活サービスの利用がしやすく、賑わいや交流があふれる拠点づくりを進めることとしている。</p> <p>この基本方針に則り、地域の賑わいの創出と教育・子育て環境の向上を目指す上で、生涯学習情報センターが従来担ってきた生涯学習の拠点としての役割も継承しつつ、法律上の市立図書館として蔵書冊数の拡充など図書サービスの充実や、市民の活動を支援するコミュニティ機能を付加し、市民が主体的に集い・学び・交流することができる図書館にリニューアルし、あわせて公園の整備を行うことで、より相乗的に施設の利用促進及び、蔵書回転率の向上、地域の活力・賑わいの再生に繋げる。</p>	<p>既存建造物活用事業(誘導施設): 守口市立図書館 公園: 大日公園</p>
その他	

守口市大日都市核地区(大阪府守口市)	面積	33 ha	区域	大阪府守口市大日町2丁目の一部、大日町3丁目の一部、大日東町の一部、八雲東町2丁目の一部
--------------------	----	-------	----	--

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。



凡 例	
	居住誘導区域
	都市機能誘導区域
	都市構造再編集中 支援事業計画区域

守口市大日都市核地区(大阪府守口市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	・大目標:都市核としてさらなる拠点の魅力の向上 ・目標:地域における賑わいの創出と教育・子育て環境の向上	代表的な指標	図書回転率(回)	1.36	H28年度 →	1.6	(R3年度)
			公園を利用したイベントの回数(回)	3	H30年度 →	7	(R3年度)

